

モデル事業名	拓魂の里 姥屋敷 地域の担い手発掘支援モデル事業
活動団体名	姥屋敷いきいき21推進委員会
ホームページ	<a href="http://www.vill.takizawa.iwate.jp/ebiyasaki22">http://www.vill.takizawa.iwate.jp/ebiyasaki22</a>
所属/ 担当者名	滝沢村 住民環境部 住民協働課 藤野 明
連絡先	Tel 019-684-2111 E-mail : sankaku@vill.takizawa.iwate.jp
活動地域	岩手県・岩手郡・滝沢村・姥屋敷地域

### ● 活動地域の概要

姥屋敷地域は、滝沢村の岩手山麓丘陵地に位置し、戦後満州から引き揚げた開拓民が昭和22年に開墾で入った住民が多く、酪農と大規模畑作が主産業となっている。自治会は一つであり、地元の結束力は強く、新年会、夏祭りなどの行事は盛大に行われている。当地区の人口350人、世帯数106世帯で、公共交通は無く、小中学校（併設）が1つである。



【位置図】



【住民により改修された道路】



【ヤマブドウ加工場】

### ● 活動地域の課題

平成14年度に姥屋敷自治会を中心に「姥屋敷いきいき21推進委員会」が結成された。これは村内にある10の「地域まちづくり推進委員会」の一つで、地域課題を住民と村が協働で解決するために作られたものである。姥屋敷いきいき21推進委員会では、以前からの悲願であった市街地から当地区までの道路を平成17年、18年に約1.4キロにわたり拡幅工事を行った。また、平成15年からヤマブドウを作付け、ジュース加工場をつくり地域の特産品にしようと取り組んでいる。

このように道路の拡幅工事、消防団活動など、地域住民が一丸となった事業展開を行っているが、地域の高齢化と少子化が当地区においても進んでおり、地域活動を含めた後継者問題が大きな課題として上がっている。

あわせて、農業中心の地区であり当地区の経済活性化も課題となっている。

### ● 活動の内容

(全体)

【検討会の実施】姥屋敷地区の課題について、姥屋敷いきいき21委員会で話し合い、課題が抽出され、若い世代を巻き込むこと、外部からの意見聴取、先進事例の学習などが必要であると認識された。

【先進事例の学習】ほとんどが酪農家であり、アイスクリーム工房や産直の経営について講師を招き、農業を活用した経済活性化について学んだ。また、風力発電やバイオマスの先進事例から地域の環境保全とエネルギーについても学んだ。

【ワークショップの実施】若者世代、都市から移り住んだ住民などを含め、姥屋敷地区の将来についてワークショップを実施した。

【姥屋敷宝探しマップの作成】地元資源について再認識し、観光PRするために地図と写真で構成するマップを作成した。マップは、訪れた観光客が、そこで得た情報や感想を書き込めるよう参加性の高いものとした。



ワークショップの様子

(直近1年間の進捗など)

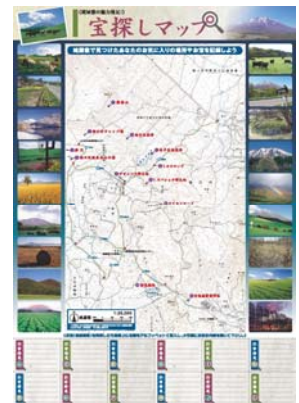
ワークショップの中で出された自然資源を活かす、農業を活用し産業を振興する、地元の人々の意識を変える、などの方向性に基づき、産直施設の立ち上げ、マップを全戸に配布しての地域資源の意識付け、特産品としてのクイックスイートの活用などが始まっている。

## ● 活動の成果

### ・全体

ワークショップなどでも話題となった産直施設については、経済行為の必要性を再認識する形でオープンし、予想以上の売り上げをもたらしている。固定客も出てきており、今後の商品の拡大も期待される。もともとこの地区は、無人販売所が点在してあったこともあり、今後、これを契機にさらなる産直施設の新設も予想される。

ワークショップ等では、従来からの住民と新規住民の意見交換が行われ、いわゆる都会の人が見る視点で当地を再度見ることができた。当地の自然資源や食資源は、他にも自慢できるものであることが分かり、マップの活用とあいまって、今後の観光化への道筋が付けられたと思われる。



地域資源マップ

### ・直近1年間の成果など

産直施設をH22年度に開設し、地元で取れた農産物、林産物などの販売を始めた。

もともとこの地域は、岩手山麓の丘陵地でありながら、盛岡市などの消費地と近く、雫石町、八幡平市などの観光地の中間地に位置することから、観光客等の移動経路にもなっており、産直施設の売り上げは思った以上にあり、出品者も自信を深めてきている。

また、地元姥屋敷の採種会社で開発されたサツマイモ「クイックスイート」はその名の通り、電子レンジなどで簡単に食べられるもので、姥屋敷地区でも積極的に導入を図り、食味を良くするため貯蔵庫も作られた。今後、その販路の拡大や加工食品の製造が期待される。村内の菓子店への供給も検討されている。

姥屋敷地区を中心とした名所的箇所をパワースポットとして回るツアーも大学生の提案により企画されており、今回作成されたマップもその実施に一躍買っており、また、ツアーにおいて活用されるものである。

新規住民と既存住民との交流もいろいろな形で深まってきている。



新たに始めた産直「停車場」



クイックスイートの貯蔵庫

## ● 今後の課題及び展望

### ・課題

地区の若者世代であるが、酪農や大規模野菜農家であり、仕事が忙しく（あるいはまとまった時間を取りにくい業種であり）新たな事業や、地域の活動に主体的に関わる余裕が無い現状が明らかになった。また、これらの世代は、当地の自家用車での交通アクセスは悪くないことから、地域外住民との交流機会が恵まれていることも分かった。

今後の事業の継続と拡大には、若者世代の協力や主体的な係わりが欠かせず、その協力体制が最重要課題であるという認識である。

少子化に伴う学校問題、地域経済の問題などは、今後地道に取り組んでいかなければならない問題である。

### ・展望

当該姥屋敷地区は、農業及び住民活動や青年活動などにおいて村内外の先導的役割を果たしてきた地区である。いったんことを始めると結束力が強く、道路も自分たちで作ってしまうようなパワーを秘めている。若者世代を巻き込むことで、さらなる飛躍が期待できる。

ヤマブドウやクイックスイートなどを活用し、また新規住民などの新しい視点やノウハウを取り入れることで、新たな加工品の開発と、産直などによる販売が期待できる。

## ● その他

転換期を迎えている当地において、地域の見直しやワークショップなどによる世代や職種を超えた話し合いが行われたことは意義深かった。問題点が整理され、認識されたことで、新たな取り組みにつながった。

村内にはこの他に9の地域まちづくり推進委員会があり、一体的に共同で事業を推進することも期待できるものである。